

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 平成30年度課題別研修

「算数・数学教育教授法改善指導者養成」

(英文) Leadership Training on Improving Mathematics Lesson Delivery
in Primary and Secondary School 2018

(2) 研修期間 平成30年5月21日～平成30年6月29日

(3) 研修員数 8人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 秋田 美代

2. 案件目標と単元目標の達成度

(1) 案件目標

【案件目標】

研修員の所属組織が、研修員の本邦研修での学びに基づき、自らの使命に基づいた算数・数学教育の改善を目指す教員研修の実施計画を作成できる。

【指標】

カリキュラム改善案が研修員所属先の所属長によって承認されていることを、帰国後に JICA へ提出する最終報告書を通して確認できる。

(2) 単元目標

①単元目標 1

【目標】

算数・数学教育の理論・方法論に関する知識を獲得し、自国の課題（カリキュラム、教材、指導方法）等を整理できる。

【指標】

事前に作成した **Country and Job Reports** に基づき、自国の算数・数学のカリキュラムについて報告し、各国の算数・数学カリキュラムの現状と課題を理解する。

日本の教育制度、日本の算数・数学教育の教育課題、世界の算数・数学教育の教育課題、日本の小・中・高等学校の算数・数学のカリキュラムについて理解する。

自国の算数・数学カリキュラムの課題を把握し、その改善策を提言できるようにする。

②単元目標 2

【目標】

学校教育現場の観察を通して、算数・数学科の授業実践における課題や留意点を整理できる。

【指標】

幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校，大学の現地研修を通して，日本の教育事情・実態を把握・理解する。

③単元目標 3**【目標】**

授業設計，教材開発，学習指導案の作成，授業評価ができる。

【指標】

自国に適した学習指導案を作成し，それにしただった模擬授業ができるようになる。

④単元目標 4**【目標】**

校内研修における授業研究の企画運営ができる。

【指標】

校内研修のスタイルを学び，帰国後のワークショップでの実践を行うことができる。

⑤単元目標 5（日本での目標）**【目標】**

自国における各学校・各地域での算数・数学教育の質的改善を目指す自立的研修の実施に向けたアクションプランを作成できる。

【指標】

帰国後の教育普及活動に備えて，帰国後の具体的なアクションプランを作成する。